

The Expert



平成25年6月10日発行

● 小児医療センター(小児科) 松裏 裕行 准教授(昭和57年・防衛医大卒)

東邦大学医療センター大森病院小児救急のご紹介

小児科領域に限らず救急医療が喫緊の課題として重要視されていることは今更申し上げるまでもありません。幸い大田区では、大田区役所関係諸氏のご尽力と3医師会および入院医療協議会などと当院との長年に亘る密接な協力関係のお陰で、特に小児領域において都内のみならず全国的にも目標となるような診療体制を築きつつあります。

救急の定義は様々ですが、「事前予約なしに当院小児科を受診した患者」について1ヶ月間の実績を検討したところ表1のようになりました。当院では小児科だけで年間13,000~14,000人の「救急」患者を診療していて、その数は10年毎に約2倍に増えています。特に2歳以下の乳幼児に着目して単純計算すると、大田区内の3人に1人は1年に1回当院を救急受診していることとなります。また表からも明らかなように深夜・早朝なども五月雨式に救急受診し、その約6割は採血・X線などの検査、もしくは輸液・吸入・酸素投与などの処置を必要としていました。

一方、検査や予定手術目的で入院した症例を除く入院患者については表2(H24年9月1日~30日実績)の通りで、腫瘍(下垂体腫瘍、胃悪性リンパ腫、卵巣腫瘍)やアナフィラキシーショック、心肺停止など多彩であるだけでなく、三次救急病院である当科での対応が責務と考えられる症例ばかりです。

2つの表は当地域の小児救急医療の厳しさを示すデータの一部ですが、当科がこのような状況下でも何とか医局を維持し機能してこられたのは、大田区子ども平日夜間救急室や大田区小児救急整備事業など様々な形で日頃から地域の医療機関のご支援とご協力を頂いているからに他なりません。小児救急医療の負担軽減策の一つとして広報カード(図)配布を小児科医会の先生と実施するなど一層の努力をして参りますが、諸先生におかれましてはどうか今後ともご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

表1: 1ヶ月間の当科救急受診患者数と受診時刻

| 時刻 | 0~2歳 | 3~6歳 | 6~12歳 | 13~15歳 | 16歳以上 | 総計 |
|-----|------|------|-------|--------|-------|------|
| 00時 | 23 | 6 | 5 | 1 | 1 | 36 |
| 01時 | 10 | 3 | 7 | 4 | 0 | 24 |
| 02時 | 8 | 8 | 5 | 1 | 0 | 22 |
| 03時 | 7 | 6 | 5 | 0 | 0 | 18 |
| 04時 | 6 | 3 | 1 | 0 | 0 | 10 |
| 05時 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 8 |
| 06時 | 4 | 3 | 5 | 2 | 0 | 14 |
| 07時 | 9 | 1 | 8 | 1 | 0 | 19 |
| 08時 | 33 | 27 | 22 | 7 | 3 | 92 |
| 09時 | 55 | 36 | 40 | 8 | 10 | 149 |
| 10時 | 58 | 43 | 40 | 10 | 5 | 156 |
| 11時 | 16 | 23 | 14 | 6 | 6 | 65 |
| 12時 | 14 | 10 | 7 | 4 | 4 | 39 |
| 13時 | 11 | 17 | 12 | 5 | 2 | 47 |
| 14時 | 19 | 14 | 13 | 2 | 4 | 52 |
| 15時 | 17 | 11 | 9 | 2 | 1 | 40 |
| 16時 | 17 | 10 | 10 | 4 | 0 | 41 |
| 17時 | 28 | 15 | 12 | 8 | 0 | 63 |
| 18時 | 31 | 18 | 18 | 4 | 3 | 74 |
| 19時 | 33 | 18 | 26 | 3 | 2 | 82 |
| 20時 | 19 | 11 | 15 | 4 | 0 | 49 |
| 21時 | 13 | 4 | 6 | 6 | 1 | 30 |
| 22時 | 23 | 14 | 16 | 0 | 0 | 53 |
| 23時 | 18 | 15 | 13 | 3 | 0 | 49 |
| 総計 | 475 | 319 | 311 | 85 | 42 | 1232 |

表2: 小児科 緊急入院症例(H24.9.1~9.30)

| 診断名 | 計 |
|---------------------|----|
| RSウイルス肺炎・気管炎 | 10 |
| 気管炎・肺炎・喘息 | 8 |
| 急性脳症・脳炎・髄膜炎・両下肢不全麻痺 | 4 |
| 尿路感染症 | 3 |
| 経口摂取困難・麻痺性イレウス | 3 |
| 腫瘍 | 3 |
| 急性虫垂炎 | 2 |
| 川崎病 | 2 |
| 腸重積症 | 2 |
| 敗血症 | 2 |
| VSD・ASD | 2 |
| 心肺停止 | 1 |
| アナフィラキシーショック | 1 |
| ネフローゼ症候群 | 1 |
| 化膿性副鼻腔炎 | 1 |
| 左頸部リンパ節炎 | 1 |
| 蛋白漏出性胃腸症 | 1 |
| 総計 | 47 |

*15歳以下が47人に加え16歳以上が1人、計48人が入院
*腫瘍の内訳:下垂体腫瘍・胃悪性リンパ腫・卵巣腫瘍



● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

医療機関専用電話 **パートナー**
03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)
(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)

● 診療日

松裏 裕行 准教授
小児科:月曜日午前
循環器小児科:木曜日午前



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元:地域医療支援センター

The Expert



平成25年6月10日発行

● 小児医療センター(小児科) 高橋 浩之 准教授(昭和61年・京都府立医科大学卒)

小児がんの子どもたちに明るい未来を

私は昭和61年に京都府立医科大学を卒業して横浜市立大学小児科に入局した後、26年間横浜の地で仕事をしてまいりました。本年4月1日をもちまして当院小児科に赴任しましたので、謹んでご挨拶申し上げます。

私の専門は白血病をはじめとする血液腫瘍性疾患です。現在、小原明院長をはじめとして5人のスタッフが血液腫瘍の外来・病棟を担当しております。担当する疾患は、白血病や悪性リンパ腫、神経芽腫などの小児がん、貧血、血小板減少症、凝固異常症などの非腫瘍性血液疾患です。小児がんの診療にあたっては小児外科や関連する外科系各科との緊密な連携の下に診療を行っております。

現在小児がん領域では、多くの疾患において多施設共同臨床研究が進み、全国統一プロトコールによる治療が行われています。白血病においては日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)が組織され、当院からは小原院長が理事として、私がAML委員として活動を行っています。昨年度、最も患者数の多いB前駆細胞型急性リンパ性白血病の臨床研究が始まったことで、主要な小児白血病はすべて「日本全国どこでも同じ治療」を受けることになりました。私自身も稀少疾患ではありますが急性前骨髄球性白血病の多施設共同研究の代表者として、臨床研究の計画と評価を行っています。

小児がんは以前は代表的な「不治の病」でした。しかし、化学療法・造血細胞移植・支持療法などの進歩により、今では80%以上のお子さんで長期生存が得られています。入院中は抗がん剤治療や副作用により辛いこともしばしばですが、病棟スタッフや2名のCLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)とともに、できる限りの肉体的精神的な苦痛を取り除き、子ども中心の医療を提供できるよう心がけています。また学習が必要なお子さんには、城南養護学校(小学部・中学部)の先生に来ていただき週3回の訪問学級を行っています。

小児がんの長期生存が可能になったことで、近い将来わが国の成人人口の数百人に一人は「小児がん経験者」になるといわれています。地域の先生方におかれましては、がんを克服して成人となり小児科から卒業していく子どもたちを共にあたたかく見守って下されば幸いです。今後とも何卒よろしくご挨拶申し上げます。

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

● 診療日

高橋 浩之 准教授：火曜日午後
金曜日午前

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター